

～若狭小浜が生んだ偉人～

杉田 玄白 先生



小浜市の歴史と文化を守る市民の会

杉田玄白先生

小浜市にゆかりの深い杉田玄白は、尚学の気風に富み、人材の育成に注力した若狭小浜藩の藩医であり、偉大な業績のうち「解体新書」の翻訳はあまりにも有名で日本の近代医学、あるいは近代文化の先駆者といわれています。



小浜藩医 父 杉田甫仙

父の杉田甫仙は、信心深い人物であり、羽賀寺に弁天像を寄進している。



重要文化財 羽賀寺本堂（小浜市羽賀）

小浜藩医 父 杉田甫仙

杉田甫仙が寄進した小沢寺の不動尊



小沢寺不動の滝（小浜市本保）

小浜藩医

父 杉田甫仙

杉田甫仙が信仰した永福庵



永福庵跡地の石碑（小浜市上野）

玄白先生
少年期

玄白が過ごした頃の小浜

- 杉田玄白は7歳から12歳までを小浜で過ごした。



1740年頃の小浜城下侍町図

玄白先生
38歳

中川淳庵の仲介で
ターヘルアナトミア入手

千住小塚原で観臓・翻訳を決意する。



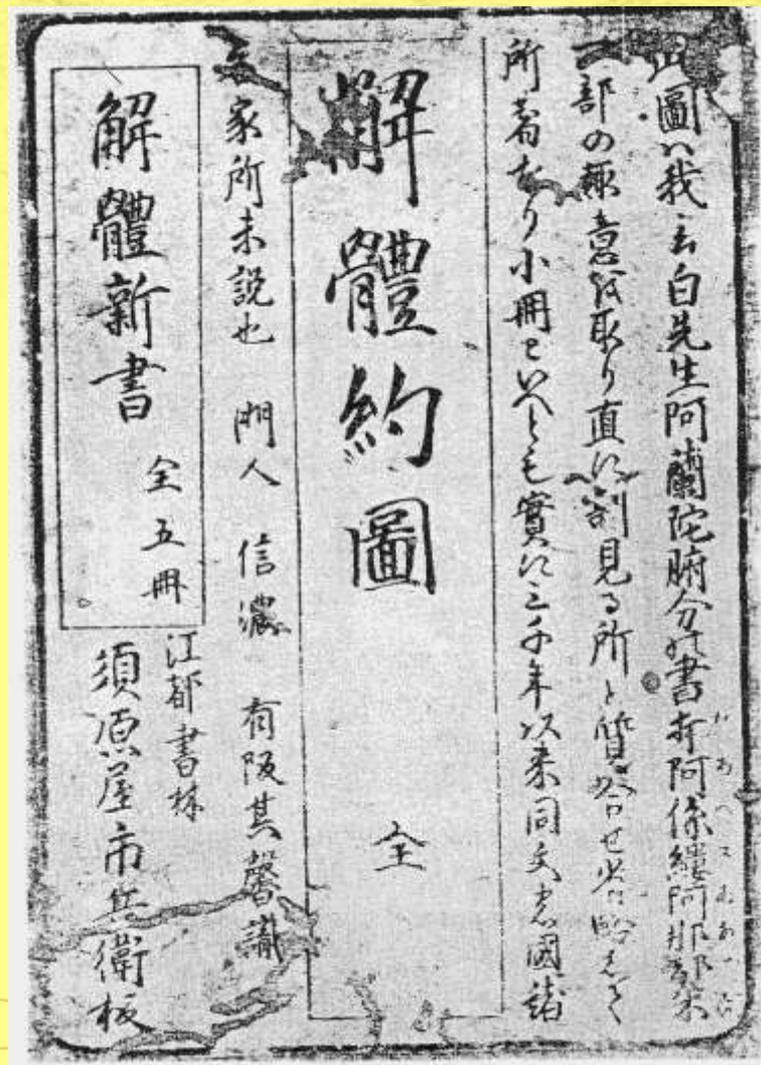
ターヘルアナトミア

玄白先生
40歳

「解体約図」を出版

「解体新書」本編の
予告と内容見本を兼
ねて5枚の解説文付
き図を出版。

責任者は玄白・淳
庵など小浜藩医でま
とめ、学問に篤い小
浜藩の後ろ楯によっ
て出版している。



解体約図

玄白先生
41歲

「解体新書」を出版



解體新書卷之一

日本

官醫 東都桂川甫周世民閱

若狹杉田玄白翼 譯
同藩中川淳庵鱗 校
東都石川玄常世通參

○解體大意篇第一

○夫解體之書所以解體之法也蓋說形體之名狀及諸臟之內外一身之主用矣

○欲其審之者無如直割見屍其次無如剖

解体新書

玄白先生
41歳

「解体新書」出版の年
小浜藩校 順造館開校



旧順造館正門（県立若狭高等学校）

玄白先生
46歳

盟友 平賀源内死去 墓誌銘を碑に刻む



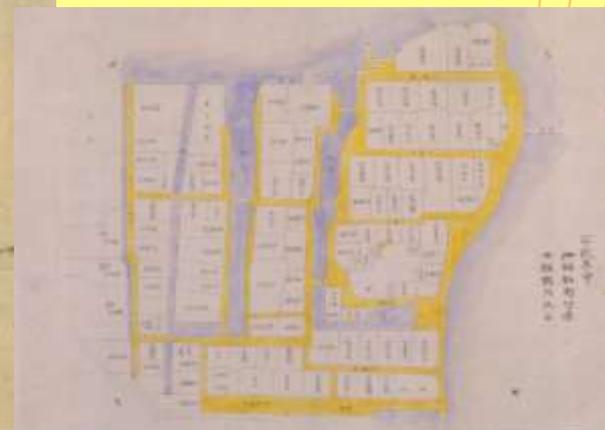
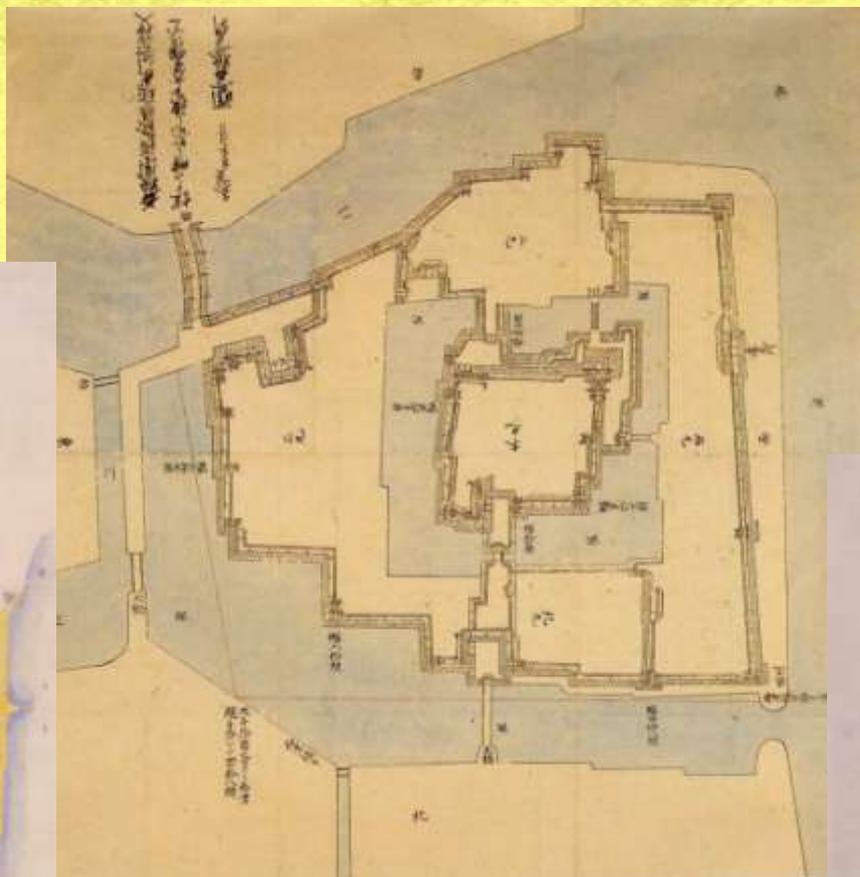
あゝ非常の人。
非常の事を好み。
行いこれ非常。
何ぞ非常の死なる。



平賀源内とエレキテル

玄白先生
52歳

藩主酒井忠貫に従い、
淳庵とともに小浜へ



1785年頃の小浜城下

玄白先生
53歲

盟友・小浜藩医 本草学者 中川淳庵死去



中川淳庵肖像

玄白先生
61歳

江戸 芝蘭堂 オランダ正月を愉しむ

弟子である大槻玄沢が蘭学者や愛好家を招き実施。
玄白はカステラのレシピを残している。



オランダ正月料理と大槻玄沢

玄白先生
69歳

「医食同源」 養生七不可を知友へ

一、昨日の非は恨悔すべからず。

- きのうの失敗は後悔しない

一、明日の是は慮念すべからず。

- あしたのことは心配しない

一、飲と食とは度を過ぎすべからず。

- 食べすぎ・飲み過ぎは体によくない

一、正物に非ざれば、苟しくも食すべからず。

- 変わったものは食べない

一、事なき時は薬を服すべからず。

- 何でもないのでむやみに薬を飲まない

一、壮実を頼んで、房をすごすべからず。

- 元気だからといって無理はしない

一、動作を勤めて、安を好むべからず。

- 楽をせず、適度な運動を心がける

玄白先生
82歳

「蘭学事始」を脱稿



蘭学事始

玄白先生
85歳

杉田玄白死去



日本医学史上に不滅の
金字塔を打ち立てた杉田
玄白先生。

小浜市では、先生が小
浜藩医として活躍したこ
とを誇りに思い、先生を
顕彰するさまざまな事業
を展開しています。

また、さまざまな地に
おいて顕彰の取り組みが
なされています。

杉田玄白記念公立小浜病院

杉田玄白先生を顕彰し、平成19年、救急救命センター、高度医療施設の設置を契機に名称変更。



杉田玄白記念公立小浜病院正面（小浜市大手町）

杉田玄白像

1983年、先生を顕彰し若狭ロータリークラブが建立。



杉田玄白像（小浜市大手町 病院正面）

杉田玄白先生顕彰碑

杉田玄白先生を顕彰し、平成14年に建立。
玄白研究家で元小浜病院長の故田辺賀啓
先生書。



杉田玄白先生顕彰碑（小浜市大手町・中央公園内）

第7回杉田玄白賞の風景1

2008



第7回杉田玄白賞の風景2

2008



第7回杉田玄白賞の風景3

2008



第7回杉田玄白賞の風景4 2008



杉田玄白先生は、
小浜が生んだ郷土の偉人です。

第9回杉田玄白賞については、
現在審査を進めています。

来年1月22日に顕彰祭・表彰式お
よび記念講演を予定しております。

皆様のご来場をお待ちしております。

